

9月中旬における大豆の病害虫の発生状況は以下のとおりです。

巡回調査(23地点)は9月11~14日に実施。

### ○ 立枯性病害

・今回の調査では、発生地点率は13.0%で平年(5.3%)よりやや高く、発病株率は0.2%で平年(0.1%)よりやや高い状況でした。病徴から黒根腐病による立ち枯れと推測されました。

### ○ わい化病, ウイルス病(わい化病を除く)

・今回の調査では、発生は確認されませんでした。

### ○ ジャガイモヒゲナガアブラムシ

・今回の調査では、ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生地点率は13.0%で平年(52.5%)より低く、25株(1株2小葉)当たり発生虫数は0.9頭で平年(18.3頭)より少ない状況でした(図1)。

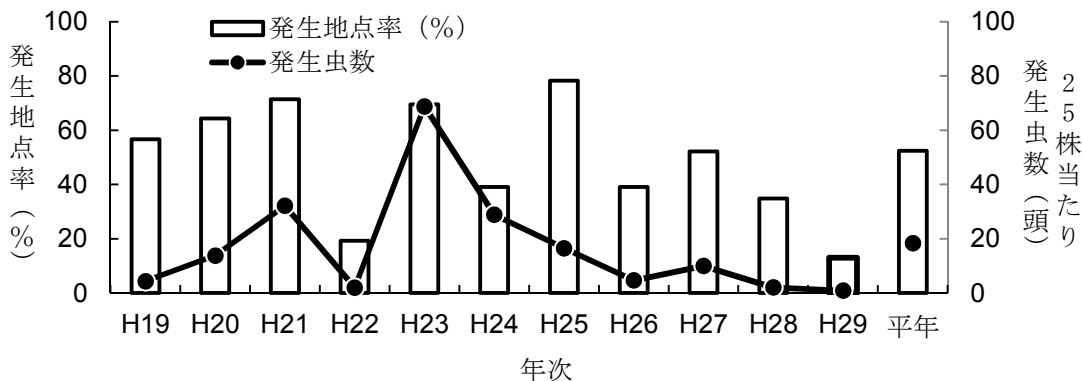


図1 ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生地点率及び25株(1株2小葉)当たり発生虫数の年次推移(9月中旬)

### ○ 吸蜜性カメムシ

・今回の調査では、発生地点率は13.0%で平年(4.3%)より高く、100株当たり発生虫数は0.1頭で平年(0.2頭)並でした。主な加害種はホソヘリカメムシとアオクサカメムシでした。

### ○ フタスジヒメハムシ

・今回の調査では、見取り調査による発生地点率は8.7%で過去8か年平均値(18.0%)よりやや低く、25株当たり発生虫数は0.5頭で過去8か年平均値(1.2頭)よりやや少ない状況でした。

・払い落とし調査による発生地点率は30.4%、25株当たり発生虫数は4.0頭でした(H24より実施のため平年値なし)。

## ○ チョウ目食葉性害虫

・今回の調査では、13.0%の巡回調査ほ場でチョウ目食葉性害虫(幼虫)の発生が確認されました。主な加害種はウワバ類とツメクサガでした。

なお、オオタバコガの定点調査ほ(古川農業試験場)に設置しているフェロモントラップの誘殺数(成虫)は9月第3週に増加がみられます(図3)。今後は例年の傾向から10月末まで断続的に誘殺が続くと推測されます。

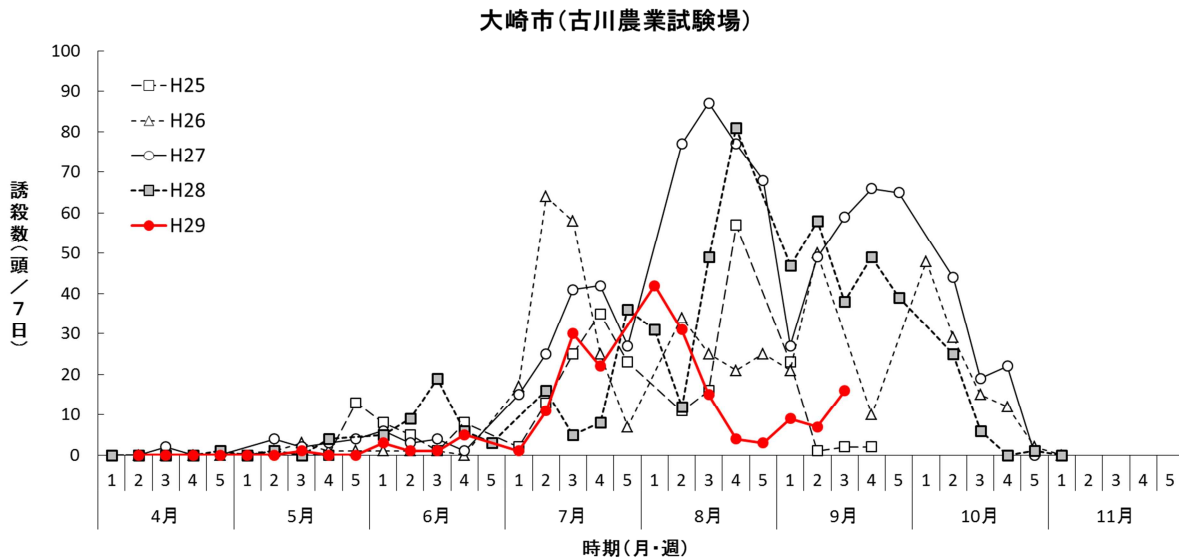


図2 オオタバコガ発生消長